

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)甲第1212号	氏名	小野 智憲
論文審査担当者		主査教授	永田 泉
		副査教授	小澤 寛樹
		副査教授	篠原 一之
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 本研究は難治性てんかんにおける全般性脳波異常、特に両側同期性のてんかん波の発生機序について、脳梁離断術施行患者の術中電気生理学的検査のデータ解析をもとに、これまで支持されてきたいくつかの仮説に対する検証を行ったもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 ヒト(難治性てんかんに対する脳梁離断術施行患者)を対象とし、説明と同意および術中記録時間制限など、倫理的側面に十分な配慮がなされている。また、電気生理学的検査についても、脳梁線維の複合活動電位を直接記録するという独創的かつ合理的な手法により、作業仮説が検証されている。よって、研究方法は十分に妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価 本研究の対象患者においては、脳梁離断術後の脳波変化から、てんかん波の両側同期に脳梁が関わっていることは明白である。その役割は、一側半球で生じた発作波の半球間伝播路であるところまでは単純に考えられていた。しかしながら、上記のような解析を行った結果、そのような役割は否定的で、むしろ、両側半球性のてんかん活動を同期化させる機序の存在が示唆され、これを半球間動員として新たに提唱した。脳梁離断術のてんかん発作に対する効果や術後の脳波変化を十分に説明できる仮説であり、非常に興味深い考察である。</p> <p>以上のように、本論文は独創的な手法によりてんかん脳の神経機構の解明を行ったものである。てんかんの臨床および神経科学の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。